

村松地区 村政懇談会

日 時：平成30年7月5日（木） 午後7時から9時まで

場 所：村松コミュニティセンター 多目的ホール

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，企画総務部長，村民生活部長，福祉部長，産業部長，建設部長，教育部長，議会事務局長） 計10名

事務局（課長，課長補佐，係長，地域づくり推進課職員3名） 計6名

自治会長（照沼区，宿区，川根区，原子力機構箕輪区） 計4名

参加者：宿区18名，照沼区12名，川根区2名，原子力機構箕輪区0名，
その他54名 計86名

報道関係：共同通信社，茨城新聞社 計2名

司会進行：原子力機構箕輪区自治会長 上坂 貴洋

総計108名

《次第》

開会

1. 出席者紹介（村執行部及び自治会長）
2. 地区自治会長挨拶
3. 村長挨拶及び村政の説明
4. 村執行部による村の事業紹介
5. 村長との座談会（質疑応答）

閉会

《記録》

【2. 村長挨拶及び村政の説明】

こんばんは。この度は村政懇談会に参加いただき御礼申し上げます。先日の石神地区に続き2箇所目である。石神でもそうだったが、縦向きだった会場を横向きにして、雰囲気が変わった。自由な質疑が定番となっていたが、最後が座談会という形式に変わって、従来型よりも自由な意見が出れば良いと思う。ご覧のような形で部長が並んでいるが、個人的には部長と皆様の距離がもう少し近い方がベストだと思っている。しかし、なかなかレイアウトも難しいので、このような形でやらせてもらう。ただし、行政側と住民側との間に仕切りがないイメージでできれば良い。この後のスケジュールだが、石神のときは、この後の部長トピックで、部長も話したいことが多くあり長引いてしまった。今回は簡潔に説明してもらうとしても、私の話が押してしまうと座談会の時間が少なくなってしまうので、15分で終わりにする。早速資料を使って説明をする。今日の資料の中で話す内容は、平成30年度一般会計予算、本年度の最重点施策、原子力政策、村全体の人口動態及び将来推計、そして地域づくり。2ページ目に円グラフがある。これは、広報とうかい4月10日号にも載せてあるコピーで、これだけ見てもわからないと思うが説明させてもらうと、まず歳入の方で、予算規模

村松地区 村政懇談会

の真ん中に総額189億800万円と書いてある。昨年度とほぼ同じ額である。歳入で特徴的なのが村税の109億1,404万円である。これだけ村税の割合が多い市町村は、県内では他にはない。東海村が豊かだと言われているゆえんは、使い道が自由である村税が、歳入の6割を占めているという点である。自由に使えるお金が多いことは、それだけ村独自の施策ができるということで強みである。その税収の大半が固定資産税である。皆さんが住んでいる土地、建物もあるが、額的には大手事業所の土地や建物。それは日本原電さんであったり、三菱原燃さん等の大手事業所のほか、東京電力の常陸那珂港区にある火力発電所のウェイトもかなり大きい。あそこに2つ炉があって、そこから入ってくる税収が大きい。固定資産税はある程度安定的な財源なので、このウェイトが高いことは、税収上は豊かであるということである。この資料に経年比較は出ていないが、想定では5億円程度減った。固定資産税は3年ごとに見直しをするのでその関係もあるし、一番大きいのは先ほども言ったとおり、常陸那珂火力発電所にかかる税金で、額は大きいですが、償却資産なので年々減っていき、昨年度当初と比べると、それだけで3億円くらい減っている。それだけ税収が落ちてくると、普通はその分歳出から削らなければならないが、なかなか削れるものがないということで、今回は繰入金を例年より増額して計上した。繰入金の中には、一時的に税収が増えた際等に、これを貯金しておく財政調整基金があり、税収が減った場合等はこれを取り崩し、繰入金として歳入に充当する場合がある。しかし、これは貯金なのでずっと使い続けることはできない。東海村は現行のサービスを維持するために、やりくりしている。そうは言っても、全体を見ていくと、村の歳出も執行段階で見直したり、できるだけ安く上げようとして、今は予算を使い切るといったことはしないで、歳出を抑えて、その分取り崩しをしないように、コスト意識を持ってやっている。当初予算における基金残高は5億円から6億円目減りするイメージだが、最終的な取り崩しは4億円くらいにするように十分執行段階で切り詰めている。当初予算で繰入金の額が大きいと、またそんなに減ってしまうのかとを感じるが、最終的にはそれほど取り崩しておらず、今年度も執行の段階で抑えている。そういう意味でも財政面をしっかりやっていきたい。

歳出の方を見ると、これもなかなか分かりづらいが、民生費というのは、社会保障費関係が多い。国の社会保障制度に基づくものがほとんどなので、ここは増えていく傾向にある。土木費は37億円で、これだけ見れば多いが、昨年度よりは抑えている。教育費は25億円で他市町村と比べても手厚くしており、直接住民に関わるサービスについては何らカットしている訳ではないので安心してほしい。

3ページについて、最重点施策だが、今年も5個挙げている。

子育て支援については、待機児童は数字上1名になっているが隠れ待機児童はたくさんいるので、根本的な解決にはなっていないが、保育所の定員をすぐに拡大するというのは、村立でやるのは難しい。ただし、今後村内の社会福祉法人が拡充する予定

村松地区 村政懇談会

があるので、それを待ちたい。村としては、病児・病後児保育ということで、病気になったお子さんは、基本的に保育園で受け付けてもらえないので、どうしても仕事が休めない時に、こういう施設が必要ということで、東海病院の駅側の敷地に、今年度中に施設整備をして来年の5月くらいから供用開始をしたいと思っている。産業振興についてだが、今まで農業政策課を建設農政部の中に入れていて、商工はまちづくり推進課の中に入れていたが、産業部というものをつくり、商工観光振興と農業支援をしっかりとやるということで、明確にした。従来までの商工業者の支援、観光協会の支援に加えて、新たな産業を興すようなところの支援をやりたいと思っている、県のほうも良いタイミングのようで、新たな交付金等を狙って、村も手伝いながら進めているところである。農業については、農業振興計画に基づいてやっていく。従事者の農業力の向上が第一であり、耕作放棄地対策まで今の農業者の方々に委ねるのは現実的に難しい。また、担い手も急には増えないことから、農業公社の設立を考える時期だと思っている。一期目からこの事を言っているがなかなか実現せず批判を受けているが、私自身ずっと必要性を感じている。ただし、闇雲につくれば良いというものでもなく、当然皆様の大切な税金を使うことになるので、そこは適切なコミュニケーションをとっていかなければならないと思っている。皆様に提示できる内容になるまで検討を進める。次に、茨城国体の推進であるが、今年度はプレ大会ということで9月に社会人チームの大会が開催される。今年度成功させないと来年の本番で失敗するので、抜かりなく準備を進めている。阿漕ヶ浦公園の整備が一部残っているのでそれをやり、東海駅西の残っている箇所もやる。ハード面等における、村の準備はある程度できるのだが、最終的には、来村者へのもてなしという部分にも注力しなければならないので、それについても進めていきたい。次に、(仮称)歴史と未来の交流館だが、こちらについては色々なご意見がある。現時点での状況を言うと、昨年度12月に、一度でき上がった基本設計を再度見直し、面積を少なくするなどして6月の定例議会で示したところである。その見直した基本設計に基づいて、今年度実施設計に入っている。今のところ、平成31、32年の2ヵ年で工事を施工し、平成33年の夏ごろにオープンさせようと進めている。箱物という形で一括りで批判を受けているが、単に文化財を展示するだけの施設ではなく、子どもたちを含めた幅広い世代がこの施設を使って、郷土をきちんと知ってもらふことのほか、にぎわいの創出をしてもらうような位置づけもあるので、ご理解いただきたい。このように見直しを行っている一方で、事業費が膨らんでいる。広報とうかい7月10日号でお知らせするが、現時点で約16億円になっている。当初の12億円のと看から金額は増えているが、面積は減っているので、そもそもの12億円という数字が甘かったというのが正直あるが、そこについては反省しつつ、今後ご理解いただけるような施設を造るのでよろしくお願ひしたい。財政面でも、冒頭厳しいと言ったが、これを造ることでさらにリスクが生まれるようなことはしない。財政についてはある程度プロ意識を持っているので、

村松地区 村政懇談会

任せていただければと思う。

5点目の安全・安心体制の確保についてだが、後ほど担当部長からも説明があるが、やっと、福島第一原発由来の除去土壌の移設ができることとなった。原子力機構の協力で、環境省のお金を使って、村内6ヵ所にあるもの全てを、原子力機構の敷地へ移設することに決まったので、公園などは以前のように使えるようになってほっとしている。その他、村松コミセンの内装改修工事を行う。村松コミセンで先日敬老会を開催したが、大変暑く改修工事にはエアコンの設置も含めてほしいと言われたが、そこまでは入っていないので、今後の課題とする。その他道路の整備や、村立体育館も耐震化やLED化の工事があるので、今年の後半は使えない。迷惑をかけるが、よろしくお願ひしたい。このほか、久慈川河川敷のソフトボール場も整備する。

原子力政策であるが、昨日、東海第2発電所の審査書案がでたということで、私も色々と取材を受けているが、正式な審査結果についてはまだ出ていないので、今後その辺は注視したい。また、村の広域避難訓練を7月16日に実施する。今年は取手市に実際に避難する。そこで課題等が見つかると思うので、計画に反映したい。また、新安全協定の締結ということで、新聞等で知っている方もいるとは思いますが、3月に周辺5市（日立市、常陸太田市、那珂市、ひたちなか市、水戸市）と東海村と原電で、新しい協定を結んで、6市村が同等の扱いを受けるということとなった。今後の動向については、新安全協定に基づいて協議が進められていく。一方で、研究開発に特化した面では、原子力施設立地自治体である本村、大洗町、六ヶ所村、鏡野町で協議会を作り、研究開発の推進に関して4自治体の首長で国に要望してきたところである。

5ページの人口動態及び将来推計だが、これは色々なところで話している。総人口はほぼ横ばい。ただし、自然増減の面では出生数がどんどん減っている。400を超えていたのが、今350を切ってしまった。死亡者数は増えているので、自然増にはならない。出生数をこれ以上下げないように何とかしたい。社会増減については、理由は分からないが昨年は増えている。なので、トータルでは増えているが、これだけ出生数が減ってくると、資料下のグラフにおける一番下のラインが直近の社人研の推計であるが、何もしなければこのように減ってしまう。なんとかこのラインを下げないように、子育て支援策をやって、若い人に東海村に残ってもらいたい。

最後の6ページ目は地域づくりについて話す。この地区自治会もそうだが、以前まちづくり協議会というものを提案した。色々なことを提案しているが、役場からの投げかけだけでは、皆さんも動けないのだろうと思う。そして、もう小学校単位では一括りにできない。単位自治会レベルで見ていかなければならない。地域の実情はかなり違うので、単位自治会レベルで入って、今後地域でどういうことをやっていくかということ、もう一度膝を突き合わせて話し合いたい。これは私自身が入っている。今年、亀下と緑ヶ丘がモデル地区なので、この村松地区は入っていない。皆さん地域の実情が分かっているようで、人口動態など良く分かっていない部分もある。そう

村松地区 村政懇談会

いった所をきっちり共有したい。ただ困っていることをどうにかしたいということだけだと、どんどん落ち込んでいってしまう。こうしたいというような明るいイメージを描かないと、話が前に進まないのだから、それを前提に話し合いをしたい。それを役場が全部やるのではなく、皆さんにもやれることをやってほしい。それぞれの役割を認識した上で、お互いのやれることをやっていく。昔ながらの地縁組織はもう成り立たないので、新しい人を入れていかないといけない。昔の繋がりを維持したままだと、新しい人が入りづらい。そこはあえて古い地縁組織を壊すくらいの発想でやっていきたい。村松地区も恐らく高齢化率が高いと思うが、緑ヶ丘は若い人がどんどん外へ出て行ってしまうのもっと厳しい状態である。これはもはや地域の問題ではなく、やれる人がいるかいないかの問題である。若い人を呼ぶことを真剣に考えないと、もうもたない。緑ヶ丘と村松地区とで多少共通する部分があって、皆さんの地域の参考になる部分があれば良いと思う。以上で私からの説明を終わりにする。

【4. 村執行部による村の事業紹介】

副村長：私は個別の事業を担当しているわけではないので、本村の人口動態について詳しく話をしたい。先ほど村長の話にもあったように、人口は横ばいであるが、出生者数が死亡者数を下回っており、若い世代が減っているという状況である。東海村でも人口減少が進んでいると捉えている。本村の65歳以上の割合では、昨年10月1日時点で24.1%となっている。この高齢人口の割合は、県内では4番目に低い数字となっている。1番低い所はつくば市の19%、2番目は守谷市の21%、3番目は神栖市の21%台となっている。東海村はまだ若い人が多いと見られがちであるが、あくまで村全体の数字であり、地域の実態は見えてこない。村内の高齢人口の割合を小学校単位で見ると、低い地域では19%だが高い地域では27%となり、かなり開きがある。もっと細かい単位で見るとどうなるかというところ、事業所の自治会が0%である一方、高い地域は55%となり、半分以上が65歳以上で占められている自治会もある。全体で見ると24%と低いけど、個別に見ていくとかなりばらつきがある。肝心の村松地区の状況だが、同じく昨年10月1日時点のデータになるが、人口としては1,910人であるが、5年前の2012年だと2,190人いた。5年間で280人減っている。平均年齢は村松地区で44.01歳、村全体では42.74歳なので、若干この地域は高くなっている。小学校単位で最も高いところは47.68歳の地域もあるし、低いところだと36歳のところもある。65歳以上の高齢人口の割合については、村松地区の場合は26.86%で、村内では高い割合の地域となっている。これまで役場のまちづくりは総合計画等に基づき、村全体の施策を行ってきたが、人口だけ見ても地域でかなり差が出ている。当然、地域の行政需要も違ってくると認識している。今後はまちづくりを進めるにあたって、もっと地域に視点を絞っ

村松地区 村政懇談会

た施策を考えなければならない。そして地域のまちづくりを進めるにあたっては、役場先行というものでなく、地域と協議しながら進めていきたい。村長の話にあった未来ビジョンの計画もこういった点を視野に入れて、取り組んでいく。

教育長：私からは2つ話をしたい。1つ目は、地域の皆様への感謝の気持ちを述べたい。照沼地区では、新川の清掃活動や米作りなど、この地域しかできない活動を子どもたちと一緒に実施してもらっており、とても感謝している。

2つ目だが、照沼小学校がさらに変わるというお知らせをする。今年度4月より、照沼小学校は小規模特認校としてスタートし、学区外から5名の児童を受け入れた。照沼小学校は NLT の先生方が携わり、図工や音楽の授業を英語で行うなど、英語教育に力を入れている。そのようなことから文化祭では照沼小の児童たちが英語の歌を披露することになっている。先日、家庭向けにアンケートを取ったが、75.9%の家庭において学校で勉強した英語や英語の歌を口ずさんでいるという結果が出ており、照沼小学区の家では今後英語で会話がされていくのではないかといいくらい良いスタートが切れたと思う。またさらに、地域とともに歩む学校ということで、来年の4月からはコミュニティスクールとしてスタートしていく。具体的な話は資料の3枚目を読んでいただきたいが、夏頃から準備会を始めていきたいと考えている。自治会や地区社協、村民会議、商工会など地域の方々と一緒になって子どもたちを育てていきたい。子どもたちは地域の方から知恵を、地域の方は子どもたちから元気をそれぞれいただき、この地区の活性化に繋がるようにしたい。ご協力をお願いしたい。

企画総務部長：私からは4点お伝えする。まず1つ目は村が村の魅力を村内外に伝えていくための「シティプロモーション推進事業」という秘書広報課が担当するものを紹介する。シティプロモーションとは一般的には自治体の知名度を上げることや観光振興が目的となっているが、単に情報発信するだけでなく、村をよりよくしたい、「東海村が好きだ」、と思える人が増えていくような取組をしたい。現在、一緒に村の魅力を発信してくれる方を募集している。村外に出られたお子さんやお孫さんでも参加できるので、ぜひお声かけいただきたい。また、村を知るための冊子として、「STORY」という東海村の魅力発信に関する冊子を作り、その取組の中で「東海村を愛する研究所」というキャッチコピーも作った。お帰りの際に興味のある方はこれらの冊子を持ち帰って読んでいただきたい。そして「東海村を愛する研究所」の役員にもぜひなっていただきたい。

2つ目は「いきいき茨城ゆめ国体」を契機とした地域活性化推進事業を紹介する。国体を契機とした地域の活性化に向け、「とうかい国体盛り上げ隊」を発足し、商工会や真崎区自治会、観光協会の方々に協力いただいている。現在、隊員は10団体17名となっている。多くの皆さんの参加を呼び掛けているので、ぜひ村松地区の皆さんにもご参加いただきたい。具体的な取組は検討中だが、イベントの企画、ホッケーの大会会場である阿漕ヶ浦公園や東海高校での村の魅力発信や地域の活性化に繋がる活

村松地区 村政懇談会

動をしていければと思う。会場での応援だけでなく、ホッケーを体験しルールを覚えたり、関連のステッカーを貼ったりするほか、東海村に来ていただいた方へのおもてなしをしたりすることも大会を盛り上げることに繋がるので、皆さんの御協力をお願いしたい。これらに関する資料もお帰りの際にお持ち帰りいただければ幸いである。

3つ目は12月に実施される茨城県県議会選挙のことである。18歳以上が投票できるようになってから4回目の選挙となるので、皆さん一緒に選挙会場に来ていただきたいと思う。東海村では70歳前後の投票率が70%程度となっているが東海村全体としては50数%であるので、若い世代も誘って投票に行って投票率を上げていただきたい。前回選挙の投票率は県内6位である。今回は5位以内を目指したい。

4つ目は、村松地区に関連する阿漕ヶ浦周辺整備についてである。(仮称)村松地域周辺活性化検討委員会で11回会議を行った。大神宮・虚空蔵エリア、阿漕ヶ浦公園エリア、細浦青畝エリア、幼保跡地エリアの4つのエリアの活性化について中間報告をまとめた。今年度の末にはこの計画を本格的に策定したいと考えている。

村民生活部長：村民生活部では地域づくり推進課、環境政策課、防災原子力安全課の3課を所管している。本日は全村的な事項として2点、また村松コミセンの内装改修工事についてお伝えする。まず、1点目は資料1ページ目の広域避難計画策定に関してだが、今年度も避難訓練を実施する。広域避難計画に関しては平成26年から昨年にかけて住民意見交換や説明会を14回実施してきている。また、この避難計画内容の検証と実行性の向上を図るために、広域避難訓練を昨年7月30日に実施したところであるが、今年度は7月16日に実施する。今年度は住民への広報訓練のほか、自主防災組織や公募住民の協力を得て避難先である取手市へ住民及び、村の災害対策本部の機能を移転する訓練等を実施する予定である。広域避難計画の策定にあたっては、関係機関等との協議、ノウハウの蓄積、課題等の洗い出しを行いながら住民への周知を図っていきたいと思う。

2点目は資料の2ページを参照していただきたい。福島第一原子力発電所事故後の除染作業により生じた除去土壌や除染廃棄物の処分を実施するものである。豊岡なぎさの森、真崎古墳群、石神城址公園、白方公園、阿漕ヶ浦公園、平原南部工業団地の村内6箇所保管しているものを環境省の実証事業として移設を行うものである。日本原子力研究開発機構の協力を得て、原子力機構の敷地内に、除去土壌の埋設処分や、除染廃棄物の移設保管を行う。事業スケジュールについては、今年の9月末までに豊岡なぎさの森、真崎古墳群の除去土壌の一部を移設、埋設処分し、秋頃までに環境省において空間線量率や地下浸透水の放射能濃度測定を行うこととなっている。移設の完了時期に関しては年内を目途としている。

最後に、村松コミセンの内装改修工事に関してお伝えする。建築から約30年が経過し、皆さんに安全で安心して御使用いただくために工事を行う。工事期間に関しては6月21日から来年の2月28日を予定している。7月2日に現場事務所も設置し、

村松地区 村政懇談会

工事の着手は7月17日からの予定となっている。9月30日に村松地区の祭りも予定されているが、それまでには調理室、和室、2階の会議室を完了させるようにする。これまで村松コミセンの予約は工事のスケジュールが決まるまで一時停止させていたが、7月13日午前9時から多目的ホールの予約受付を再開する。

福祉部長：福祉部は4月の組織改変で変更があった概要と平成30年度の重点事業の内、2つの事業について説明する。まず、組織改変について、これまでの4課体制から今年度6課体制となった。増えた2課についてだが、介護福祉課が高齢福祉課と障がい福祉課の2課に分かれ、昨年より1課増えた。また、これまで村民生活部だった住民課が福祉部となった。課が増え、より専門性を発揮できるようになったが、専門性を発揮しながらも、各課の横断的な連携はしっかり図っていきたいと考えている。

次に、2つの事業について紹介する。まず1つ目は病児病後児保育の実施に向けた整備についてである。村長から話があったように、東海病院の敷地内に施設を建設し、病気にかかっている概ね生後6ヶ月から小学6年生を預かることができるようにするものである。平成31年5月のオープンを目指して作業をしている。

2つ目は、子ども医療費の助成制度の拡大についてである。広報とうかい7月10日号に内容を掲載するので御確認いただきたい。村では10月から医療費の助成対象を中学3年生から18歳の高校3年生まで拡大する。それは茨城県の医療助成制度、通称マル福が18歳まで拡大されることを受けて実施するものである。村は県の制度に上乘せして助成するほか、所得制限により県の制度が受けられない場合でも村では助成対象とすることとしている。この制度により、子どもの成長とともに増加する経済的負担を少なくできると考えている。

最後にイベント情報を紹介する。7月15日に10時から正午まで東海文化センター大会議室において、茨城県シルバーリハビリ体操フェスティバルを開催する。講話のほか、体操の実演や体験、理学療法士による相談会を行う。ぜひご参加いただきたい。

産業部長：産業部は今年度新しくできた部であり、産業政策課と農業政策課の2課で構成される。まず1点目はハローワークや商工会と連携し実施する合同就職説明会という面接会についてである。昨年も実施し、26の事業所が集まり、求職者83名が参加したが、そのうち9名について就職が決まった。

2つ目であるが、村内の中小企業者を対象とし、セミナー等を開催し、まずは先端技術に理解を深めていただき、中小企業にとっての新たなビジネスチャンスに繋げていきたいと考えている。

3つ目だが、店舗等の改修を行った場合、経費の一部の補助をする。それにより、商店等の魅力の向上に繋げていきたいと考えている。

次に、農業政策課に関することであるが、平成27年に策定した東海村農業振興計画という10年間の計画がある。この計画に基づき、新規就農者や認定農業者の技術

村松地区 村政懇談会

の習得に関する支援や施設の整備に関する助成を行っている。2つ目が、JAの直売所等を利用し、地産地消の推進を図っている。そして3つ目が、研修を受講した場合にその経費の一部を助成することによりリーダーとなるような人材を育成していきたいと考えている。最後に、今年度からはJA常陸と連携して輸出米に関する調査研究を始めたことを紹介する。今後海外展開を図れるような取組をしたいと考えている。この地区に関することとしては、東新川の第三期の改修工事が今年10月から来年の5月まで実施期間になっている。一部通行止めもあるので、御協力をお願いしたい。

最後になるが、平成27年度から「東海村おすすめセレクション」という取組を行っている。これは観光協会と商工会との連携により実施しているが、皆様にも活用いただきたいと思う。また、7月11日から12月25日にかけて「とうかい育ち」というシールを貼った東海村産の農産物がにじのなかとイオン東海店で販売される予定である。そのシールを集めると商品がもらえるキャンペーンを実施する予定である。ぜひ産業振興並びに東海村の魅力発信のためにご協力いただければと思う。

建設部長：建設部は都市整備課，区画整理課，下水道課，水道課で構成されており，今年度は「災害に強い社会基盤の整備」，「国体に向けたインフラ整備」，「地域の特性を活かす土地利用」の3つの目標をかかげてまちづくりをしている。皆さんの地区に関係するものとしては，国道245号の拡幅工事を県の常陸大宮土木事務所で進めているところである。平成29年度末までで，全長3.8kmのうち事業費ベースで83%の進捗となっている。現在，原電のT字交差点周辺で工事を行っており，今後原研前交差点から阿漕ヶ浦公園方面について用地がまとまり次第施工していくこととなっている。

次に，阿漕ヶ浦公園の工事についてであるが，今年のプレ国体，来年の本番に向けて，今年度は修景整備，大型遊具，園路，進入道路，排水設備について工事を予定している。また，生活道路については村松宿こども園の近くの村道3132号線の改修を予定している。その他，補修が必要な道路については地区からの要望等を考慮し，傷んだ舗装の更新工事をおこなっていく。

最後に下水道事業についてだが，村松地区内の未整備箇所がまだ残っているので，管布設工事を予定している。

教育部長：教育委員会からは村松地区に関連すること2点，全村的なこととして3点お伝えしたい。まず1点目は真崎城についてだが，昨年縄張り調査を行い，縄張り図を作成したところである。地域の皆様が草刈りなどの支援をしてくれたおかげでスムーズな調査をすることができた。感謝申し上げます。遺跡の保存に関しては，現状保存が原則となるが，地域の皆様の憩いの場となるよう，進めていきたいと考えている。

2点目であるが，村の花「スカシユリ」の増殖に取り組んでいることをお知らせする。昭和60年3月6日に村の花として制定された当時は村内に多数生えていたが，現在はJAEAの敷地内に生えているのみとなっている。これまで実行委員会を作り，

村松地区 村政懇談会

スカシユリが今後身近に見られるように研究している。例えば村松海岸に移植をし、スカシユリを増やすことなどを考えている。ぜひ、住民の皆さんと協力して取り組んでいきたいと考えている。現在サポーターを募集しているので興味がある方は生涯学習課にご一報いただければと思う。

3点目であるが、資料3枚目の「とうかいまるごと博物館」という事業を紹介する。この事業は東海村全体を屋根のない博物館と捉えて行っている事業である。東海村全域をフィールドに、歴史や自然に親しみ、郷土愛をはぐくんでいただきたい。2018年度の前期メニューを掲載しているので、ぜひ親子で参加し、思い出を作ってください。後期メニューはまだ発表されていないが、村松地区に関する予定としては、村松海岸砂防林の歴史、真崎城ガイドツアーなどを予定している。

4点目は資料の4枚目についてだが、現在国体のボランティアを募集しているのでぜひ応募いただきご支援いただきたい。ボランティアの活動内容や募集要件についてはページ中ほどに記載してあるが、村としても一緒に活動し、サポートしていくのでぜひチャレンジし、良い思い出を作ることができれば幸いである。

5点目だが、資料5枚目に昨年策定したスポーツ推進計画について載せている。目標として、5年後に村内成人の週1回のスポーツ実施率を60%にしたいと考えている。現在は約35%となっているので2018年から2022年の間に高めていこうとしている。ユニフォームを着てきちんとやるものだけではなく、簡単なウォーキングなどから始めていただければと思う。

議会事務局長：議会は行政機関と違い、議事機関となり、20名の議員からなる。6月1日から20日まで第2回議会定例会が開催され、20名のうち15名が一般質問し、執行部側の考え方や事業の執行状況を確認した。また、補正予算など、26の議案について可決したところである。議会の映像はコミセンのほか絆でも放映している。ちなみに、今回の議会の傍聴者の数であるが、実際に議場に來た方は68名おり、コミセンと絆で傍聴された方は152名いた。村松コミセンで傍聴された方は24名おり、コミセンの中では一番多い。7月25日に議会だよりが配布されるので、詳しい内容についてはそちらを参照いただきたい。

【5. 村長との座談会（質疑応答）】

照沼区住民：朝日新聞の記事で原発の再稼働について、住民の意見の場を設けるとあったが、その種類、こういった形で住民に意見を求めるのか。個人的には、説明会ではなく、村民の意見を広く求めるのであれば、18歳以上の住民投票を検討したらどうだろうか。

村長：住民の意見の把握の方法だが、地方自治法上では住民側からの請求もできるので、住民投票も1つの方法だと思う。ただ、結局住民投票はマルバツになってしまう。

村松地区 村政懇談会

与えられる情報にもより、公職選挙法とも違うことから、皆さんが冷静に判断できる情報をどうやって伝えていくかもある。最後はどちらかに決めないとならないが、皆さんが悩んで考えた結果が、紙一枚で決まってしまって良いのか、というところが私も悩みどころである。ただ、一方的に説明会をやっても、それはダメだと思う。今日も座談会ということだが、そういう車座でというのもあるが、大勢ではできないので、小さい規模にはなってしまう。また、申し訳ないが、今日の村政懇談会に参加しているのは世代的にも年配の方が多数を占めており、若い人たちがどういう風に思っているかということを知りたくてもなかなか把握できない。若い人が出席しやすく、雰囲気ややり方も従来のものに捉われないでできないかずっと考えている。誰がそれをやるかというところで、役場は中立という立場でもあるため難しい。どういう風にしていくか考えるので少し時間がほしい。そういうことをやった上で最終判断をしてもらいたいと思う。いきなり住民投票をやったりはしない。

照沼区住民：座談会という話があったが、地区自治会だけの座談会では若い人が出てこないが、単位自治会レベルであれば、若い人も出てくるかもしれない。単位自治会に対しても、1回の開催だけではなく、全ての年齢層を対象に1回、若い人だけを対象に1回、という形を検討してもらえると良い。

もう1点質問するが、新協定で6市村あるが、再稼働の可否については、単独でそれぞれの市町村が決めるのか、6市村で共有して、最終的に原電と調整するのか聞きたい。

村長：新協定に基づいて決めるが、細かい内容についてはまだ決まっていない。基本的には、各自治体に原電から説明をしてもらう。そこで色々やり取りをして、各自治体で判断できないときに、皆で集まって話しましょうということになるので、集まって話し合った際には各自治体で合意形成は諮りたい。なので、基本的には各自治体が独立した考えを持った上で協議し、最終的には6市村でまとまった考えを出すと思う。

照沼区住民：絆と中丸小学校の間に信号機がある。あれは普通の信号機だが、感応式で良いのではないか。また、先ほど建設部長も村道何号線と言っていたが、冠水があったとき、村道何号線を封鎖するという話になると思うが、地名で言ったほうが良いのではないか。3つ目に、茨城東病院前の道路について、側溝よりも路面が低くなっている。水溜りができるので改修してほしいという話が以前にあったが、その時の回答が、自然沈下だということだったと思う。毎日その場所を通っていたので、工事の状況が分かっているのだが、あれは自然沈下ではなく、アスファルトの量が足りていないからである。その辺りをちゃんと監督してほしい。また、震災後の村道が、轍ができていたり。水溜りやへこみもあるので早く改修してほしい。次に観光協会について、観光協会がアイヴィルの何階かに入っていると思うが、一階のロビーに誰もいない。普通観光協会というと、観光案内所も兼ねていると思う。なので、あのようにな

村松地区 村政懇談会

ら空きにしておくのではなく、インフォメーション、いわゆる受付があつてしかるべきではないかと思う。続いての質問は村松晴嵐についてである。八間道路に行けば分かるが、松がかなり枯れている。また、砂がどんよりとした色をしていて、生きていと思えない。観光資源としてどうなのか。観光資源としたいのであれば、枯れた松は伐採すべきだし、松の育成もすべきである。次に、東海駅から東に向かって、樺の木が沢山植わっていると思う。あそこの剪定は剪定ではなく伐採である。見た目も見苦しいし、かわいそうである。ちゃんとしてほしい。最後に避難訓練について。今年の訓練の集合場所はコミセンだった。当日のアンケートにも書いたが、照沼区民はコミセンには来ない。恐らく照沼小までしか来ない。わざわざ原電に近い場所になど行かない。考えていただきたい。

村長：新しくできた信号機のことだと思う。他の地区でも感応式にできないかと言われている。警察との協議の過程で、勝木田下の内線の東海病院の先がまだできていないため、そこができてからで良いだろうということで、信号機をつけてくれないという話もあった。ただ、五反田線の十字路の所もあるので、二箇所つけなければならぬけれど、一気に二箇所はつけてくれないというところで、当面駈上線にだけつけてもらえることになった。役場も、信号機が必要だからつけてくれと言っているのに、交通量が少ないので感応式にしてくれというのは整理がつかない部分がある。今は、勝木田下の内線の途中を開けたので、いずれは交通量が増えるが、想定よりは使われていないので、ご不便おかけしている部分はある。ただし、秒数の調整はできると思う。ただ、感応式にしてくれと言ってしまったら、これまで役場が言ってきたことがウソになる。そのため、秒数の調整でなんとかならないかと思う。

次に冠水場所の言い方について、おそらく細浦のことを行っていると思うのだが、あそこはいつも村道番号で言ってしまうので、地名で言うほうが良い。屋外でスピーカーを通して放送する時に、聞きやすい言葉にしたりする等の工夫も必要かと思う。

建設部長：施工不良ということだが、あの場所は、大分痛んでいるので、今年度工事を行なう予定である。碎石の上に舗装を載せるのだが、抜き打ちでアスファルトの厚さも測るのでしっかり施工管理を行い、検査の際にも厳しく見ていきたい。

村長：つぎはぎになっている幹線道路の舗装は大体終わった。次は生活道路などの細かい道路なので、今年度から予算の枠をとって、順次やっていく。村内全域が対象なので、優先順位の関係でいつやるとは言えないが着実に進めていく。

現在アイヴィルは2階に事務局があつて、施設自体を観光協会で管理している。一階の使われ方については色々な人に言われている。観光協会の中でも検討はしているが、なかなか形になって表れていないので、相談しながら形が変わるように検討していく。

八間道路の松枯れについて。松くい虫が基本的な原因で、村が管理しているところ

村松地区 村政懇談会

は大体伐採しているが、恐らく国有林は財務省なのでやっていない。原子力機構内の松は当然原子力機構が管理しているが、松枯れの対応については予算的に厳しいかもしれない。基本的にそれぞれ管理しているところがあるので、そこはもう一度、被害の拡大を防ぐため早く伐採するようにやっていきたい。植栽等についてまで述べられるかという点と難しいかもしれないが、被害が拡大しないようにはしたい。次に避難についてだが、おっしゃりたいことは分かる。村としてこの地区の人の避難先はコミセンだというのが基本形になっていて、その中でさらに細かく見ていくと、実際は、行動心理でコミセンには行きづらく、地域の人がそのように思っているとすると、今後についてはどうするか別途考えなければならない。

街路樹については交通安全上も剪定は必要だと思っている。剪定の仕方については、ある程度業者に任せきりになってしまっていると思うので、発注の仕方と剪定の意味合いに近づけるように、業者に伝えるべきだと考えている。

宿区住民：いつも農業政策課で迅速に対応していただくなどしてありがたい。本日村へ要望したいことがいくつかある。1つ目は、毎年配置を変えていること。農業関係の部が産業部であると今初めて分かった。変えるにしても3、4年は変えずに固定してほしい。行く度に配置も変わって分かりにくい。職員も迷惑だと思うし、私たちも迷惑である。次に、本日の村政懇談会について、言いにくいですが、宿、照沼住民の方が少ない。村の関係者は村長が別に集めて説明してほしい。サクラは必要ない。村松・宿の住民を中心にやってもらいたい。次に、昨年も生活道路をどうにかするという話があったが、対応をお願いしたい。今度245号が拡幅し、商店等が動かされたが、今後ここがどういう形になるのか。ここには村松山ということで虚空蔵尊がある。昔は奥の村松海岸の細い方まで入って行って、色々活動した。今は原子力施設があって入りづらい。10年くらい私も行っていない。振興ということもあって、村松山を中心に、虚空蔵尊、大神宮があるので、その辺の観光をもう一度見直してもらいたい。歴史館みたいなものができると思うが、文化センターを中心としたあの地域に集中している。駅前でも人口も増えていて、確かにいいところだが、その分村松が取り残されている。これだけ原子力関係で協力した結果がこういう状態になっている。村で10年、20年先を踏まえて、もう一度考えてもらいたい。

村長：組織の改変について。私が就任したのが平成25年の9月。26年4月に思い切った組織改変をしている。その時は、村長公室をつくったのもあり、部の再編ということになった。その後は全くやっていなかったというわけではないが、二期目に入って、やりたいことも色々あるほか、仕事の中身も変わってきている。国や県から降りてくるものもあるし、皆さんからのニーズもある。ただ、部の再編については、一期4年は変えるつもりはない。

次に村政懇談会についてだが、私から職員に出席するように言っている訳ではない。

村松地区 村政懇談会

村長、副村長、各部長が、住民とどんな話をするのか知っておきたいという想いで自主的に来ている。なので、私が別に職員に出席を強制しているということはない。住民からどのような意見が出て、村長や各部長がどのような回答をしているかを知っておかないと、後々住民の皆さんから部長がああいう風に言っていた、と言われた時に、聞いてないとなるとまずいので、自分たちの仕事の一環で来ている。当然ここを住民の方が埋めてしまえば、職員はどんどん後ろのほうへ座らざるを得ない。皆さんが優先なので、どんどん住民の方に来ていただいて、職員は後ろへ追いやってくれて構わない。ただ、職員に来るなどは言えない。それは、1つの勉強だし、仕事でなく自らの意思で来ているのでご理解いただきたい。生活道路については、先ほども言ったとおり、一気ににはできないが順次やっていく。245号の拡幅について、私が気にしているのは、4車線化することで、中に中央分離帯ができるので、宿のところも分断されると思うし、通過道路になる可能性がある。宿幼稚園と村松保育所の跡地は、地域の方々が使い易いようにしたいが、駐車場としてある程度確保して、ここに立ち寄ってもらえるようにしたい。さわやかトイレのところも拡幅されて、駐車場が減ってしまうので、村が持っている土地の中でどれだけ拡大できるか、ただあそこは大型車は入りづらい。中央分離帯ができてしまうと、片側からしか入れないので、乗用車は良いとしても、バスが入れる所を、場合によっては周辺に確保して、バスで来た人にはそこで降りてもらおう。そこから、理想を言えば、サイクル研の前の方から昔の門前をずっと歩いてもらうような形にしたい。人の流れが変わると、少し賑わいも変わるかもしれない。人を誘導したりすることも大事だと思っている。やらないとこの地区が本当に何の恩恵も得られない。その時に、駐車場だけじゃなくて、人が立ち寄れるような、固定の施設を造るのではないかと思う。よく言う「道の駅」みたいなものである。「道の駅」は基本的に、トイレと駐車場しか造らないので、直売所は別な形で造っている。そうすると、誰が運営するかなどのお話が出てくるので、そこは十分検討しなくてはならない。何かしらそういった施設が必要になってくる。どうしても現在、(仮称)歴史と未来の交流館も含め文教地区に公共施設が集中している。村内から行きやすいという場所で、あそこが選ばれている。石神や照沼もそうだが、公共施設がない地域が廃れていってしまう傾向があるので、地区には地区の誇りをもてるものが必要だし、この地区には、村松山虚空蔵堂と大神宮があるので、観光ということで、人が訪れてくれるような地域を造ることで、地域ごとのバランスをとっていきたいと思っている。大事な提言なので、しっかりやっていきたい。

照沼区住民：規制委員会で再稼動については一歩進んだという感じと想っていたが、結局、周辺5市の茨城方針を作ったことで、再稼動のハードルが一段高くなった。周辺の自治体はほとんど反対するのではないかと思う。水戸は1番に反対を表明した。周辺の都市はメリットが少ないということで必ず反対すると思う。そうすると、再稼

村松地区 村政懇談会

動は不可能に近いように思う。先ほども人口減により、地場産業がなくなるということで、非常に残念である。なぜこういう風に茨城方針ができてしまったのか。村長に心境の変化があったのかと思う。そのあたりの趣旨、背景について説明してもらいたい。

村長：色々な見方があって、私が就任した時には、この所在地域首長懇談会というものはできていて、東海村が呼びかけ人となって、5市を集めて、協議を行って、事業者に要望をしており、それを引き継いだ。色々な見方があるが、福島事故が起きてしまったのは現実で、安全協定の枠組みが、事故前の枠組だということで、あの事故は相当大きな影響を与えている。私もそこは真摯に受け止めなければならない。当然ながら、交付金が支給されるのは所在地と県だけ。基本的に交付金の枠組みは安全を前提にでき上がっているのだから、所在地のほか、周辺自治体まで交付金の支給対象とすることはなかったのだが、福島事故により市町村境が無くなってしまっているような状況なので、これを鑑みると、今までと同じやり方で良いのかという思いもある。近隣の首長からすると、地元に対して説明がつかない。これだけ時代が変わってしまっていては、きちんと理解して前に進んでもらいたいと思うので、枠組みとしては広がるけれども、そこできちんと協議をすることが必要だということである。事業者にとっても、ここはクリアしなければならない。これは感情論ではなく、きちんとした議論。お互いに議論して、安全対策をどうするか、防災対策をどうするか、それを真摯に議論して、結論を出していこうと思っている。

新聞情報にもあるが、基本的に、原電は規制庁に審査を申請しているものが3つあって、全部11月までに終わらなければ、それは廃炉になってしまうので、そこは1つの目安になると思う。その辺の時期にならないと先行きはなかなか言えないというところはある。

照沼区住民：過日、村の「くらしの便利帳」が配布されて、使い方の一つとして、医療機関を地図上に載せました、というのが表紙の裏側に書いてある。どういう風なものなのか後ろのほうを見てみると、医療機関が3つ、薬局が1つしか載っていない。途中には25の医療機関が一覧表に載っているのだが、表紙の裏で謳い文句を載せているのに載っていない。なぜかと考えてみたら、このページは有料広告だった。載せなかった医療機関はなぜ有料広告出さなかったのか。色々な理由があると思うが、我々年寄りや、これから東海村に入ってくる転入者は、一番身近なのは医療機関だと思っているので、これはお願いになるが、改めて地図上に医療機関を載せたものを、一軒一軒配布してもらいたい。

村長：「くらしの便利帳」、体裁もちょっと変わっていて、皆さん少し疑問に思ったかもしれない。色々仕組みがあって、業者と村で提携してやったので、村は一切お金を出していない。業者が広告費をとって、それを財源にして作っている。村は中の内容

村松地区 村政懇談会

だけ提供しているので税金の節約にはなっている。ただ一方で、業者は広告費を出している、いないで差をつけただけだと思うが、そういう仕組みで作っているのである程度その差はついてしまっている訳だが、村が皆さんに情報提供するものとして、紙ベースで全戸配布は難しいかもしれないが、必要な情報についてどうやって周知するかを改めて考えさせてもらおう。

宿区住民：今、245号の拡張工事の影響ですごく渋滞している。特に通勤時間帯、朝7時半から8時くらい、それから夕方。完全に虚空蔵尊前の通りが通過道路に変わってしまっていて、住民が危なくて走れない状況になっている。それから、細浦の田んぼの中や阿漕ヶ浦の運動公園の中等、ありとあらゆる所に車が流入して、住民の生活に関わる道路の中に入り込んできている。村道等なので、通るなどは言えないと思う。通るにしても、路地裏を通る車に安全対策をしないと、245号の拡幅が完了する前に、何件か交通事故が起こる。自治会でも交差点の「止まれ」の看板を直してほしい等の要望は出しているが、あの標識には警察が関与しているので対処できないという回答が返ってくる。朝に来て見てもらえばわかるが、ひどい状況である。宿だけではなく川根の田んぼの中を照沼小学校の辺りまで、どんどん車が走っているような状況もあると思う。なので、245号の完成を待っていたら交通事故が起こってしまうので、そういった路地裏関係の交通安全に関する標識、道路の整備はいち早くやらないと問題がある。早急にやってもらいたい。自治会として要望も出しており、小学生も安全を脅かされているのでお願いしたい。

村長：今工事がされていなくてその状態なので、これで工事で迂回路なんて造りだすと、もっと激しくなると思う。車の流れがどうなっているのか、村として把握しなければならぬし、警察とも協議したい。245号について、大宮土木事務所からは、順次北側から工事していると言われている。何とか国体前までに阿漕ヶ浦運動公園の入口までやりたい。最後は阿漕ヶ浦の入口から宿の方の南側が残る。若干用地がまとまってないところがあるのと、新川と村松川と国道の下を抜ける道路があり、橋のようなものが三つあり、それを架け替えるようなイメージなので、陸続きのところを拡幅するのは訳が違う。そこが困っている。当然、橋を架け替える時は、別に仮設を造っておいて、こっちに新しい橋を造ってまた戻すような形なので、時間と手間はかかる。架設の橋で迂回路を造るのに、また用地の交渉が出てくる。そういったことでやってはいるのだが、なかなか進まない。ただし、今回のご意見はもっともなので、そこは改めてどんな対策ができるのか、相談させてもらって、それを警察へ持って行って、何らかの安全対策を取れるようにしたい。

照沼区住民：コミュニティスクールについて教育長に聞きたい。これは確かに良いアイデアだと思うが、老婆心ながら、進める上で心配なことがある。現在、学校の先生

村松地区 村政懇談会

は、クラブ活動もあり、授業も大変だということで、社会的にも問題になっている。コミュニティスクールをやるにあたって、学校運営協議会というものができると思うが、ここでの対応で学校の先生が大変になってしまうかもしれない。本来の授業に差し障りが出なければ良いと思うのだが、その辺に十分注意しながら進めてもらいたいと思う。

教育長：コミュニティスクールは、村松小学校で昨年準備会がスタートした。スタートのときは私も参加した。照沼小学校の児童は、地域と関わる機会があると思うが、今地域と関わっている活動をさらに充実させていく。新たに加わるということはやらない。1つの例をあげれば、今日白方小学校を村長と訪問してきたのだが、書道を1度もやったことのない先生が、子どもたちに「こういう風にトメるんだよ、ハネるんだよ」と教えて、果たして子どもは身に付くだろうか。それであれば地域の達人に書道を教えてもらって、先生も一緒に学んでいったほうが、子どもたちもプラスになるのではないかと思う。そういう意味で、コミュニティスクールは先生を楽にしてあげよう、地域でやっっていこうというのが1つ。2つ目は、交通安全教室を1、2年生は必ずやるのだが、その時に、子ども達だけではなく地域のおじちゃん、おばちゃんも一緒にやっていきましょうよというもの。例えば、「おじいちゃん一緒に横断歩道を渡ろうよ」と孫がおじいちゃんに教える。そういった活動をしていったほうが、良いのではないかと思う。お年寄りの方が意外と交通ルールを守っていなかったりするので、地域と一緒にやっていった方が、効果があるものは地域と一緒にやっていきたいと思っている。そして、先生方の負担にならないように、今あるこれまでやってきた取組みを、子ども達の素晴らしい育ちのために少し変えてみようよ、地域の方の元気のために少し換えてみようよ、という形でやっていきたい。準備会では、私も一緒に参加しながら取り組んでいきたいと思うので、子どもたちのために、地域のために、頑張っしていきたいのでよろしくお願いします。

川根区住民：子どもの交通安全に関わることで、川根の民家側をって照沼小学校に向かうのだが、川根の民家側の道路の左右にガードレールがあって、その手前に1人が歩けるようなラインが引いてあり、そのラインの間はほとんど草が生えている。子どもが歩けず、車道のほうを歩かなければならない。そこを裏道ということで通り抜ける車がある。元々そのような問題があるが、その道を2名ほど通学する子どもが増えたこともあるので、きれいにしてもらいたい。

村長：村道の除草は年に2回しかやっっていない。発注した業者でやっっているのかは確認する。やっただで足りないようであれば、予算も含めてきちんとできるように考えなければならない。

司会：最後に村長から一言お願いします。

村松地区 村政懇談会

村長：村政懇談会は年に1回しかない。夕方7時からだと女性の方などは参加しづらいのかもしれない。できるだけ声を掛けてもらって来てもらいたい。今回スタイルを変えてみたが、年に1回だとなかなかうまく伝わらないところもあるので、色々な機会に役場の職員が関わられるような何かを、皆さんで作ってもらいたい。役場のシステムとしては、出前講座みたいなものを行っているが、それがとっつきにくいようであれば、このような形で人に集まってもらって、単位自治会レベルで良いので、何かしかけてというか、役場を使うようなイメージで言ってもらえればと思う。私たちが設定しようとしても、なかなか事前の調整なんかで時間がとられてしまうので、皆さん方が少人数で集まって、原子力の話がしたいとなったら防災原子力安全課を呼んでもらっても構わないし、道路の話がしたいなら都市整備課を混ぜて、皆さんの方から役場をつつくような感じでやってもらって構わない。当然私をつつきたい場合には、基本的に毎月第3土曜日にイオンのフードコートで話を聞いている。最近要望が少ないのは良いことなのかもしれないが、納得しているのかと不安にもなるので、村長に文句を言いたい方はぜひ来てもらいたい。次回はたまたま環境フェスタの中でやる。それとコミセンでもやるようにと議会から言われているので、コミセンへ行くことも考えている。直接私や担当課に、1人で聞きに行くのが怖ければ、グループでも良いし、役場に行くと言いくるめられそうだとすることであれば、地域に呼んでもらって構わない。そこは、どんどん役場を使うというイメージでやっていってもらいたい。

以上